

第9回 下田歌子賞 短歌募集

絆 (きずな)

友達との絆、家族との絆、地域との絆・・・絆と聞いて思い浮かぶことは何ですか？
絆(きずな)をテーマに短歌にしてください。

◎ テーマ 絆(きずな) 一人と人との結びつき、つながり

◎ 各賞 《小学生の部》《中学生の部》《一般の部》部門ごとに入選5首

◎ 応募方法 正賞・副賞(小学生・図書カード3千円、記念品 中学生・図書カード5千円、記念品 一般・賞金1万円、記念品) 応募は一人1首に限ります。応募方法は「エッセイ募集」に準じます。

◎ 応募締切 平成23年9月12日(月) (当日消印有効)

◎ 発表・表彰式 平成23年12月10日(土)、岐阜県恵那市で発表・表彰式。

◎ 審査方法 候補作品の中から恵那市民に受賞推薦作品を投票していただき、得票数順に選考します。

■ 下田歌子について

わが国女子教育の先駆者で、歌人としても名高い下田歌子は、安政元年(1854年)美濃国岩村藩(現在の恵那市岩村町)に生まれました。幼い頃より和歌を詠み、漢詩を吟ずるなど学才に恵まれ、明治4年(1871年)16歳のとき父の後を追って上京。翌年宮中に女官として出仕し、その和歌の才能を愛でられた皇后陛下(後の昭憲皇太后)から歌子の名を賜りました。明治12年(1879年)に宮中を辞した後、自宅に桃天学校を開設して女子教育に力を注ぎ、明治18年(1885年)に創立された華族女学校では学監兼教授を務めました。2年余の欧米女子教育視察を経て、明治32年(1899年)に私立実践女学校(現在の実践女子大学)と女子工芸学校を創立しました。その後も、女性の自立自営をめざして、裁縫学校や夜間学校を各地に設立するなど、新しい時代の女子教育に一生を捧げ、昭和11年(1936年)82歳の生涯を閉じました。下田歌子が遺した言葉「女性の清らかな徳性と豊かな情操をもって社会の弊を正せ」や「揺りかごを動かす手が世界を動かす」に代表されるように、下田歌子は高い志を持って近代日本の女性の地位向上に力を尽くしました。



■ 下田歌子賞について

下田歌子賞は、平成16年(2004年)の下田歌子生誕150年を迎えるにあたり、下田歌子のふるさとである旧岩村町(現在の恵那市岩村町)が岐阜県、実践女子学園およびP H P研究所の協力を得て、下田歌子の業績を顕彰しつつ、エッセイ募集を通して、ひとの生き方や教育のあり方などを共に考え、学ぶために設けた公募賞です。昨年からは、歌子に因んで短歌募集も加わりました。平成15年(2003年)度の第1回募集以降、毎年全国各地から多数の秀作が寄せられています。

■ 「第9回下田歌子賞 表彰式・記念イベント」のお知らせ

第9回下田歌子賞の表彰式・記念イベントを、平成23年12月10日(土)に下田歌子のふるさと岐阜県恵那市において開催します。小学生の部および中学生の部の大賞・特別賞・奨励賞協賛会賞は、ふるさと先人賞を受賞した子どもたちに受賞作品を朗読していただき、会場審査によって決定いたします。詳細は、9月中旬以降に発表します。

■ 嚶鳴(おうめい)協議会

ふるさとの先人をまちづくり、人づくり、心そだてに活かしている自治体に参加する協議会。

【参加自治体(平成23年4月現在)】

宇和島市、恵那市、大野町、沖繩市、小田原市、釜石市、多摩市、竹田市、田原市、東海市、長野市、益田市、米沢市。

下田歌子の生涯を漫画化! 『きらり うたこ』出版



著者: 牧野和子

原案: 杉原萌

監修・発行: 実践女子学園
発売: (株)小学館スクウェア
発行日: 平成23年3月3日
価格: 800円(税別)

※全国の書店、インターネット通信販売サイトで発売中
お問合せ先: 実践女子学園総合企画室 ☎042-585-8804